

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に反映した主な事例（平成31（令和元）年度）

経営協議会の学外委員からの意見	本学の取組状況
<p>◆ 千葉大学グローバル人材育成「ENGINE」について</p> <p>〔意見〕 大学として海外に行く学生たちを手続き面で助けるということは重要だと思う。相手大学の方から学生に何を勉強したいのか求めてきたときに、申請書を含めて、ほとんどを英語で作るので、それをチェックする機能を各学部あるいは大学に作る必要がある。</p> <p style="text-align: right;">（令和元年7月18日 経営協議会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 各学部・研究科（学府）等における留学プログラムの開発・運営支援及び「全員留学」実施に係る全学的に共通する業務を行うための全学組織として、「留学支援センター」を令和2年4月1日付けで設置した。
<p>◆ 大学院工学研究院附属インテリジェント飛行センターの設置について</p> <p>〔意見〕 ドローンを使用するに当たって、騒音の問題や倫理の問題は避けて通れない。センターのメンバーの中にそういったことを考える人はいるのか。文系の先生も参加して、経済学、あるいは倫理学といった観点でこういった問題について考えた方がよいと思う。</p> <p style="text-align: right;">（令和元年9月19日 経営協議会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 特に市街地でドローンを飛行させる場合は、騒音については避けては通れない問題と認識している。飛行性能を維持したまま静音化を実現することは技術的に大きな課題であり、当センターではフクロウ規範型の低騒音プロペラの開発を進めている。 • 騒音を人間への外部刺激として捉え、生理学的且つ心理学的なストレスを評価する騒音の人間工学的・心理学的な研究も進めている。 • 倫理面では、倫理学を専門とする広報担当の特任研究員がメンバーに参画しており、当センターでの技術を世に出す段階で考えられうる倫理的な問題について、その都度指摘し、工学専門の研究者と議論を進める体制を取っている。 • 騒音の問題を含め、SDGsの達成や、環境問題の解決についてもメンバー全員で意識を高め、技術者としての責任の自覚を共有している。

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に反映した主な事例（平成31（令和元）年度）

経営協議会の学外委員からの意見	本学の取組状況
<p>◆ 大学院工学研究院附属インテリジェント飛行センターの設置について</p> <p>〔意見〕</p> <p>この間の台風15号の災害被害を見ていて、いつかテレビの中で千葉大学のドローンが現地で飛んで被害状況を詳細に把握して対応しているというニュースが流れるのではないかと期待していた。気象予測が進んで細かい区域ごとに予報が出せるようになってきているので、今回のドローンの先進的な研究にあたっては、防災とか、そういった観点からの部分をぜひ視野に入れてほしいと感じた。</p> <p style="text-align: right;">（令和元年9月19日 経営協議会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 大規模災害発生時の情報収集および人命救助を支援する「災害環境への適応性と迅速性を有するAI強化型ドローンシステム」の開発を進めている。本研究では災害時に情報収集の迅速性と過酷環境に対する適応性に着目し、被害状況の把握、被害人員の特定、被害地域への医薬品の配送などを可能とするドローン災害救助システムの創出を目指している。既にフィールド試験を実施して土砂崩れ等で遮断された道路や、取り残された人の場所をドローンで特定するための実験を進行中であり、今後、AIで自動検知できるよう、継続して開発を進めている。 • 災害救助を想定したドローンの競技会として、一般財団法人先端ロボティクス財団が主催する「先端ロボティクスチャレンジ」があり、こちらにも参加の準備を進めている。 • 細かい区域の高度な気象予報を可能とする微気象（人間活動と大きく関係する地表付近の気象）予測基盤の創生を目指すための基盤技術としてドローンによる高度なセンサー気象情報及びドローン配送システムの開発を外部機関との共同で進めている。 • 災害救助の問題は社会的需要が高いため、広報にも力を入れており、YouTubeやウェブサイトを通じて積極的に情報発信を図っている。